

厚生常任委員会記録

令和元年10月17日（木）

場所：鳥栖市議会 第2委員会室

令和元年10月17日 日程

日 次	月 日	摘 要
第 1 日	10月17日(木)	案 件 子育て支援の充実（子育てマップ、病児保育）について がん検診の近隣自治体の近年の実施状況や受診率について 体育施設（体育館・グラウンド等も含む）の整備計画について 〔説明、質疑、協議〕

1 出席委員氏名

委員 長	中川原豊志	委員	古賀 和仁
副委員 長	樋口伸一郎	〃	藤田 昌隆
委員	森山 林	〃	牧瀬 昭子
〃	成富 牧男		

2 欠席委員氏名

なし

3 説明のため出席した者の職氏名

健康福祉みらい部長	詫間 聡
健康福祉みらい部次長兼社会福祉課長	小柳 秀和
健康福祉みらい部理事兼次長兼こども育成課長	江寄 充伸
こども育成課長補佐兼子育て支援係長	林 康司
こども育成課担当課長鳥栖いづみ園長	久保みゆり
健康増進課長兼保健センター所長	坂井 浩子
健康増進課長補佐兼国保年金課長補佐	名和 麻美
健康増進課長補佐兼保健予防係長兼国保年金課長補佐兼係長	白山 淳子
健康増進課健康づくり係長兼国保年金課係長	松隈 由美
健康福祉みらい部次長兼スポーツ振興課長	佐藤 道夫
スポーツ振興課スポーツ振興係主査	佐藤 義勉

4 出席した議会事務局職員の職氏名

議事調査係主査 大塚 隆正

5 日 程

子育て支援の充実（子育てマップ、病児保育）について

がん検診の近隣自治体の近年の実施状況や受診率について
体育施設（体育館・グラウンド等も含む）の整備計画について

〔説明、質疑、協議〕

6 傍聴者

な し

7 その他

な し

午前 9 時 58 分開会

中川原豊志委員長

厚生常任委員会を開会いたします。

本日の日程について御説明をいたします。

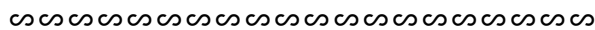
本日は、先般 8 月に議会報告会を開催した折に、市民からいろいろな意見が出ておりまして、それに関しまして当厚生常任委員会所管の事柄について、議長より、確認してほしいという申し出がありましたものですから、その件について、3 件ほど確認をさせていただきたいということで、委員会を開催させていただきましたので、よろしく願いいたします。

日程につきましては、まず、子育て支援の充実、それから、2 番目にがん検診について、それから、3 番目に体育施設の整備についてということで、説明を受けたいというふうに思っております。

その後、委員間で協議をいたしまして、議長のほうに報告書を作成したいというふうに思っておりますので、よろしく願いをいたします。

よろしいですか、そういう日程で。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕



子育て支援の充実（子育てマップ、病児保育）について

中川原豊志委員長

では、早速でございますけれども、まず、子育て支援の充実についてということで、市民のほうからいろいろ要望、意見等が出ておりました。

その中で、1 つが子育てマップというのがあるので、その件については「いいですね」という意見も出ておりましたので、その件について、これは、市民活動の団体でつくられているというふうに思いますが、市執行部として、そのマップとか、また、これに関する、例えば、子育て支援のいろいろな資料等もあろうかと思いますが、その辺について、今後どうした方がいいのかなというふうなのがありましたら、まず、この件について御説明、お考え等をいただきたいなと思います。

よろしく申し上げます。

江寄充伸健康福祉みらい部理事兼次長兼こども育成課長

おはようございます。

それでは、初めに子育て支援の充実というようなことで、御意見等々いただいておりますということで、御説明をさせていただきます。

まず今回、2点、大きく、子育てマップ、それから病児保育というようなことでの御意見、御要望ということでございます。

1点目の子育てマップということでございますが、お手元のほうにカラーの印刷物、若葉小学校区わくわくマップというようなA3サイズのやつと、もう一つが、白黒なんです、みんなで子育てマップということで、資料として2つお手元のほうに配付いたしております。

まず今回、子育てマップということで、これは、市民協働推進課のほうが所管しております市民活動支援補助事業の中で、この若葉小学校区のわくわくマップというものが作成されております。

これにつきましては、民間のサークルであります子育て支援サークルのさくらんぼランドさん。これは、所在が神辺町ということで、このさくらんぼランドさんのほうが、この市民活動支援補助事業という事業を活用をされて作成されたマップであるということでございます。

これは、平成30年度に作成をされて、聞くところによりますと、1カ月に5,000部ほど作成されていると。

それで、各地区、若葉小学校区内の子育て支援センターとか、まちづくり推進センター、あるいは幼稚園、保育園というふうなところで配付をされているとお聞きしております。

このさくらんぼランドさんについては、継続的にこういった事業を行ってきたいということでございまして、平成31年度については、鳥栖地区と鳥栖北地区について、またこのようなマップを作成される予定であるということをお聞きしております。

一方、本市において、マップというような名称をつけておりますものについては、もう一方の白黒で印刷しております、これは、いろんな幼稚園、保育園、教育機関、それから、子育てサークルさんとか、子育て支援に関する機関等々の所在地、あるいは連絡先等を、一応地図形式に紹介しているようなものでございます。

現状、こういった紙面で提供させていただいておりますものについては、こういったマップ以外にも、子育て支援情報誌等を毎月作成しております。

そういったものも関係機関を通じて、子育て世帯の方への配付を行っております。

それと合わせて、子育て支援情報につきましては、市のホームページのほうでポータルサイトを設けておりますので、そこでいろんな制度の紹介とか、支援の状況とか、そういったものを一括して情報提供をさせていただいております。

今後については、基本的には、確かにこういったペーパー等で、冊子みたいな形で配付するというのも1つの手ではございますが、どうしてもやはり、こういったペーパーものになっていきますと、つくった翌日から情報っていうのはもう古くなってしまいますので、どうしても日々更新っていうのは……。

そういうことになっていきますと、なかなか、冊子的なものを毎年、毎年つくるっていうのも、一定経費がかかりますし、担当する職員等も必要になってくるということにもなりますので、基本的な今後の考え方としては、現在ホームページで行っております情報提供、それをメインに、こういう子育てサークルさんがつくられているような情報も合わせてリンクを張れば、そこにリンクを張っていきたいと。

それと、そういう状況にない場合には、こういう資料的なものとして作成されている分については、データとして取り込んで、今のホームページ上にあわせて御紹介をしていきたいと。

それで、今の子育て世代の方っていうのは、基本的にはもう、ほぼスマートフォンっていうツールをお持ちですので、冊子にするよりも、日々更新されていく内容をタイムリーに情報提供していくには、やっぱりそういったツールのほうが、経費等もそんなにかかりませんので、そちらのほうがいいのかなど。

そういうことで、担当課といたしましては、今後、こういうサークルさんがつくられるものについては、できるだけホームページ上に取り込んで、情報提供していきたいという考えを持っております。

子育てマップについては、以上でございます。

病児保育も続けていいですか。

中川原豊志委員長

続けてお願いします。

江崎充伸健康福祉みらい部理事兼次長兼こども育成課長

よろしいですか。

次に、病児保育でございますけれども、9月議会でも牧瀬委員のほうから、この病児保育については、一般質問でお尋ねをいただいております。

そこでお答えしたとおりなんですけれども、現状、この病児保育については、入院治療を要しない病児療養中、また、病気の回復期で集団生活が困難な期間に、保護者が就労等で看病できないというような場合に、一時的に専用施設で保育と看護を行う事業ということで、病児保育と言っても病児と病後児というような事業がございます。

御承知のとおり、現在本市におきましては、病児保育というものは、まだ実施できており

ません。

病後児保育につきましては、1施設で今、事業はやっておるところですけれども、確かに、病児保育っていうものについても、ニーズがあるというようなことは認識しております。

ただ、これまでの経過につきましては、市内の医療設備のある施設等とか、民間の保育所等々、事業実施に向けて、いろんな国の補助制度とかも御説明をいたしまして、相談等々を行っておりますけれども、なかなか現在のところは、進展が図られていないというような状況でございます。

確かに、この病児保育については、課題が幾つかございまして、確かに、施設の整備関係、それから、職員の配置、看護師さん、保育士さん、それから、当然、お医者さん関係、そういった、施設的には、小児科ですか、そういう病院で事業を実施できれば一番いいのかなとは思っております。

ただ、そういう施設的な問題、人的な問題というような課題がございますので、今後については、引き続き、これまで御相談をしてきました医療機関も含めて、相談していきながら、実施に向けて取り組んでまいりたいとは思っているところでございます。

なお、県内の状況でございますけれども、県内は、今、4市町で5施設が病児保育を実施されていると聞き及んでおります。

佐賀市さんが2カ所、それから、嬉野市さん、江北町さん、それと武雄市さんがそれぞれ1カ所。4市町の5施設で実施をされているというようなことです。

今後については、こういった先進的に実施されております自治体のお話を伺いながら、実施に向けて取り組んでいきたいというふうに思っておるところでございます。

説明については、以上です。

中川原豊志委員長

ありがとうございました。

ただいま、子育て支援関係について説明がありましたので、御質問、御意見御要望等ございましたら、お受けいたします。

どなたかございますか。

成富牧男委員

質問ですけど、病後児保育と病児保育って、病児保育の中に、病後児保育も概念的には含まれているんですか。

江寄充伸健康福祉みらい部理事兼次長兼こども育成課長

事業としては、一般的には病児保育事業の中に病児と病後児と分かれているというようなことでございます。

成富牧男委員

ありがとうございました。

それで、結局、今、課題を、施設とか職員とかいろいろ言われたけれども、何でひっかかっているんですか。

銭の問題。それとも、そもそも施設が鳥栖市の場合、そういう小児科さんが足りないとか。

江崎充伸健康福祉みらい部理事兼次長兼こども育成課長

この事業実施をするに当たって、小児科のお医者さんのほうでお引き受けいただくのが一番理想的かなとは思っていますが、事業実施に当たっては、当然、スペースの確保、まずは、施設的にスペースの確保が必要である。常時受け入れをするために、そういうスペースをあけておかななくては行けないと。

やっぱり、市内の小児科さんは、個人病院が多うございますので、そういったところで、今、そういう空きスペースを持たれているっていう病院が果たしてあるのかなというようなことがございます。

それと、施設もそうですけど、そこに当然、お医者さんを含め、スタッフの方が常駐しておかないといけないということで、そういった人件費等もあります。

これは、特別保育事業に当たりますので、国、県、市の補助はあるんですけども、総事業費に対する、いわゆる手出し部分、事業者さんが負担する経費っていうのが、一定出てくると。

そういうことも含めて考えますと、なかなかスムーズに事業実施ができないというような状況です。

成富牧男委員

今、一生懸命努力されているのはよくわかりましたけれども、鳥栖市には、これだけ保育所なり幼稚園があれば、割合的にいうと、そういうことを必要としている人も多いと思うんですね。

そうすると、やっぱり、どげんかしてせないかんわけやけど、今、言われた4市町、そういうところで何か特別に工夫されて、それにこぎつけたとか、そこら辺は何か情報はありますか。

林康司こども育成課長補佐兼子育て支援係長

個人病院さんですので、ここに当たって、事業説明して、受け入れられたっていうところが佐賀市さんとか江北町さんはあるかと思いますが、武雄市につきましては、もう市で箱をつくって、そういった手挙げ方式、病院を呼んでっていうところの事業で展開されてあるところはあります。

成富牧男委員

お医者さんのところをいろいろ差別したらいかんでしょうけど、一般的に、やっぱりこういうのは、やる気がある人、やっぱりありますよね、温度差が多分あると思うんです。同じ小児科のお医者さんでも、非常に熱心な人とそうじゃない人と。

だから、まず、そこんところを突破せないかんのでしょうけど、合わせて、今、武雄市の例を出されましたけど、そういう例があれば、そういうのも十分検討して、調査して、研究していただくということ。

それと合わせて、さっき、もう一つは、武雄市以外はちゃんとありましたみたいな、自分のところで、そんなスペースがあったちゅう意味ですか。やっぱり熱心なお医者さんがおられたちゅうことですか。

林康司こども育成課長補佐兼子育て支援係長

すいません、ちょっとそこについては、詳細には伺っておりません。

成富牧男委員

ぜひ、さっき言った分と武雄市の例と合わせて、必要性は十分認識していただいておりますので、そして、努力されているのもよくわかりますので、もうちょっと、そこんところを掘り下げて調査していただいて、ぜひ、実現に向けて引き続き努力していただきたいと思っています。

樋口伸一郎委員

子育てマップのさっきの説明なんですけど、考え方としては、ネットとかツールも含みですかね、そうした、今の世代に合わせたことで力を入れて考えていきたいということだったかと思うんですけど。

個人的には、もう、めっちゃめっちゃそれがいいと思います。

ただ、ネットっていうのが、そこにどれだけいいページというか、形をつくっておっても、例えば、まず、そのホームページに直接飛ぶことはなくて、大体の皆さんが、グーグルとか、いろんなもので検索をして、言葉でよく言いますよね、ひっかかって、そこに飛べたと。いろいろ検索ワードを入れて、ひっかけて飛ぶと。

だから、ちょっと提案なんですけど、ホームページ主体でいいと思うんですよね。

そうしたら、ネット上ですので、手数はかかりますけど、お金かけずに更新をしていけるというところはすごくいいと思うんで、市から書かれている物すごく詳しい名前がありますけど、これは、やっぱり更新していくと、たびたび変えないかんし、これをするのにもお金が要ります。

だから、例えばなんですけど、変えなくていいような、A4の1枚の、裏は白紙でもいい

ですし、もうチラシのイメージで、各保育園、幼稚園、小学校、中学校で子育て世代の方がおられるところに、ずっと変えなくていいチラシですよ、例えば、こういう細かい内容とか、名前とか、住所は書かずに、ホームページ、インターネット上に掲載をしますので、こういうところ、飛び方教えるとか。

この中に詳しいことは書いていますっていうのだと、もう変えなくていいじゃないですか。

ずっとホームページがある以上は変えなくていいし、機会を見て、毎年、毎年じゃなくても、何か市との交流がある際にそのチラシを持って行って、これをお配りくださいって言うと、それをひっかけるきっかけになるかなと思うんですよね。

だから、偶然、子育て支援、鳥栖市とか入れれば、たくさんある中から飛ぶことはできるかもしれないですけど、その飛ぶための仕掛けをつくるような、更新をしなくていいような広告というかチラシというか、そこから概要版をつかって、中身に飛んでもらうというような仕掛けづくりも一緒に考えたらどうかなと思うんですけど、どうでしょうか。

江崎充伸健康福祉みらい部理事兼次長兼こども育成課長

ただいまの御意見、確かに非常に大切なことかなというふうに思います。

情報はたくさんあっても、その情報を取り出せないというのが一番ネックなのかなと。

そういう意味では、やはり今後、子育て支援に関する情報を市民の皆様方にお知らせする——市民の皆様方以外にも、鳥栖市に今後転入してこようかなというような人たちにもアクセスが非常にしやすいような環境というようなことで、当然、そういうことも必要かなというふうには思っております。

大変貴重な御意見ありがとうございます。

なお、先ほど説明しました、基本的にはホームページでというようなことを申しましたのは、1つは、来年度、市のホームページがリニューアルされる予定ですので、今の子育て支援に関するホームページ上でのポータルサイトも、もう少しアクセスしやすいような、見やすい形に変えていければなというようなことで、担当の職員とも話をしていますので、そういうアクセス方法とか、そういったことも含めて、今後検討してまいりたいと思います。

どうもありがとうございます。

樋口伸一郎委員

ぜひ、よろしくお願いします。

やっぱりネット上っていうのは、さまざまな情報があって、よく見られている、アクセス数が上がっているやつから上に上がってくるようになっていっているんで、偶然でひっかけるっていうよりも、もう誘導してくるような感じで、ぜひ、ホームページの情報発信をお願いします。

藤田昌隆委員

これに関して教えてくれん。

ここに掲載されているお店があるやん。

それで、これは、鳥栖市民活動支援補助事業で作成してありますとありますよね。

それで、ここにお店がずっとあって、青色と、ただパークのところだけに色があるやつ。

それから、おっぱいも飲ませられますよとか、おむつをかえられますよっち、そういう施設があります。

それで、例えば、三宅屋酒店、これは何もないやんね、パーキングも何もない。

それから、フィッシュ金梅鳥栖鮮魚店、これは、駐車場があります。

花匠も駐車場があります。

普通、例えば、子育てっていうか、そういうあれやったら、おむつをかえる場所がありますとか、おっぱいをやれる場所があります、こういう店を選定する基準、要するに、これも結局、補助事業としてお金をやっているわけやけんさ、こういう店の差別にはならんかなっち。

きちんとやっているところ、やっていないところの判別をつけた上で、これに載せるとか、その辺は、何か縛りがあると、チェックは。

江寄充伸健康福祉みらい部理事兼次長兼こども育成課長

申しわけございませんが、この補助事業につきましては、所管が市民協働推進課になっておりますので、詳細については把握しておりません。

申しわけございません。

藤田昌隆委員

こういう形で、されてはいいと思うんよね。

いいから、そのほかにしようと思ったら、これ、最初見て、これおかしいじゃんち思ったぐらいやけんさ。これを鳥栖市全体に広げるんやったらね、そういうことも——関係ないっちや言われたけど、その辺も考えてやってほしいなと思いました。

それと、ほいじゃあ、これを載せたからといってお金を取っているのか、要するに、広告と一緒にけんね、これ。

その2つ。(発言する者あり)

わかった。わかったけど、実際、出しておるならね、それは、皆さん、こういう委員会の場に出しておるんだったらさ、それぐらいの質問には答えてくださいよ、本当は。

以上です。

江寄充伸健康福祉みらい部理事兼次長兼こども育成課長

今の藤田委員の御意見、御要望でございますが、このマップをつくられたサークルさんについても、当然、子育て世代のサークルさんであるというふうにお聞きしております。

それで、このマップを作成するに当たっては、私ども職員もいろんな御意見等をお聞きしておりますので、全くノータッチなわけではございませんので、今後、一応、今年度は鳥栖、鳥栖北地区、また予定されているとお聞きしておりますので、例えば、マップを作成するに当たって、またいろんな会議とかに私ども職員の出席要求とかがあるかと思っておりますので、その際にでもこういう意見がありましたというふうなことは、お伝えしたいと思っております。

以上です。

藤田昌隆委員

この評価が高いということやけん、そういう意図があって、そして、広めるためには、その前にもう一回、きちんとすり合わせをやった上で広げましょうということですよ。

よろしくをお願いします。

成富牧男委員

今の藤田委員のことに関連してですけど、ちょっと私も伺ったことありますけど、かなり足で稼いで、1つずつ丁寧に、足でそれぞれ回ってつくってあるというふうには直接伺いました。

だから、今、言われたような懸念は、まず、ないんじゃないかなというふうに思います。

だから、さっき、見せ方については、いろいろ工夫してできるっちゅう話がありましたけど、そもそも更新された、その更新ができたその内容っていうのを、これだけこまめにやるっていうのは、やっぱり地域のこういうサークルさんに依存するっちゅうか、やってもらわないと、多分、かなり難しいと思うんですね。

だから、そこら辺を、このさくらんぼランドさんも要望してあったんですよ。何とか、提携して、連携してやっていけないかと。一番いいのは、委託、受託の関係でできたら、なおいいなあみたいなの。

それは、1つは、このペーパーでっちゅうのが前提であったかもしれないけども、お金がかかるから。

そういうところもありましたので、そういうのも考えていただいて、今後、やっぱりいい内容になっていますので、これ、鳥栖市全域に広がったらいいと思いますので、よろしくをお願いします。

江崎充伸健康福祉みらい部理事兼次長兼こども育成課長

今の御意見、御要望でございますけれども、今後につきましては、先ほど申し上げましたように、基本的には、市のホームページを活用してというようなことで考えております。

こういったサークルさん、ほかにもいろんなサークルさんがございますので、そこで取り組まれている事業、それから、こういうマップも含めて、視覚的に提供できるような素材があれば、各サークルさんのほうに、一応私どももコーディネーターがおりますので、そこを通じていろんな情報をいただきながら、ホームページ上で情報提供をしていくというふうなことで今後は取り組んでまいりたいと思います。

以上です。

牧瀬昭子委員

いろいろありがとうございます。

サークルさんとのやりとりがいろいろあっているんだなというのを、お話を聞きながら思ったんですけども、サークルさんとの話の中で、つくられる家庭での御苦労とか、市に対する要望とかっていうのが、改めて具体的に何かあったら教えていただけますか。

林康司こども育成課長補佐兼子育て支援係長

すいません、ちょっと詳細には、まだそこまではお聞きしておりませんが、このマップをつくられる際には、当然、内容の確認とかしていただきたいというところと、配付先の紹介、案内窓口とかっていうところでの御相談はしております。

牧瀬昭子委員

ありがとうございます。

内容の確認っていうのは、多分、中身についてのっていうことでいいんですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

先ほど議員さんたちからもお話が出たと思うんですけど、これをつくるときの一番の御苦労って、多分、足を運ぶ、1軒1軒に、例えば、こういう事業をされていますよとかっていうのは、やっぱり行かないとわからないし、利用しないとわからないんですよね。

それって、すごく時間もお金もかけてつくられているところで、これをぱぱっとこうイラストレーターですることよりも、多分、そちらのほうに時間をすごく割かれていて、載せてくれないか、いいですかっていう交渉もすごく大変な御苦労だと思うんですよね。

それを市が本当に人を派遣してやるとなったら、物すごくお金をかけてすることになることを、補助事業を使って、すごく安価で作成していただいているのではないかなあというのを、これを見たときに思ったんですよね。

それで、議会の市民への報告会のときにこの話が出たのは、つくられた方ではなくて、つくっている様子を見ていた市民活動センターの方から、この活動、すごくいいよねっていうお話があって、報告会の中でこういう話が出ましたよっていう中身だったんですよね。

それで、こういう市民活動されている方たちが地域の中で動き回ることが、子育て

世代にとって、情報提供になるのがすごくありがたいということだったので、ぜひ、続けていただきたいよねっていう話が物すごくあって。

お仕事されている方たちからすると、やっぱり、1軒1軒ノックして、ここは子供に対してどうですかとかっていうのをつぶさに当たるっていうのは、とても無理なことなので、こういった活動を通して、子育て世代の方たちがより行きやすい場ができるっていうことをすごくおっしゃっていただいたのがありまして、さっき、お話ありましたが、できるだけそういう活動を続けてもらいたい。

これから更新していく形っていうのを、市が本格的に考えますということであれば、これを例えば、PDFでばって載せるのはすごく簡単なことだと思うんですけど、それって本当、さっきおっしゃったみたいに、古くどんどんなっていくので、これ自体がマップの中に、1個1個の情報が、ぴっと押したら検索できて、情報が出てきて、その情報自体がまた古くなったら更新できるっていうふうに、差し替えがすぐできるように。

それで、それっていうのは、やっぱり、情報をつくり出す人とその情報持ってくる人と両輪があってこそだと思うので、そのあたり含めて、どんなふうにされていくのかっていうのを……、載せるっていうのは、ばって、ぴってくっつけるだけなのか、今後見越した上でやっていくのかっていうのは、どっちを考えてあるのかっていう事を知りたいんですけど。

江寄充伸健康福祉みらい部理事兼次長兼こども育成課長

今後のことでございますので、具体的にこういうふうにやっていきますよっていうような考えは、現段階では持ち合わせておりませんが、やはり、今議員から御指摘があったように、情報を収集するというようなことが、一番時間も手間もかかるというようなことは理解しております。

そこまで行政のほうで、私どものほうでやるとなれば、相当な人力、時間が必要になると、なかなか担当課のほうでできるようなことでもない。

そこは一定、こういう子育てサークルさんのお力をかりながら、いろんな情報提供を今後進めていきたいというふうに思っております。

そこは、どういうふうなやり方が一番いいかというのは、今後また検討させていただきたいかなと思っております。

牧瀬昭子委員

どうもありがとうございます。

お母さんたちも、子供さんがどんどん大きくなっていく中で、パートに出るか、この活動を続けるかのはざまにあるなっていうのがあって、それで、やっぱり、もう本当、ただでやっていて、意気込みだけで今はやっていらっしゃるんですけど、本当に鳥栖市がこれが必要

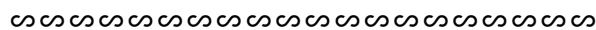
だということであれば、ぜひ、さっきおっしゃっていただいたみたいに、実現していただきたいなと思っています。

すいません、要望でした。

中川原豊志委員長

では、子育て支援関係についてはよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕



がん検診の近隣自治体の近年の実施状況や受診率について

中川原豊志委員長

では、続きまして、がん検診の件についても、がん検診を充実してほしいという意見だったり、がん検診、無料でやっているというのは、いいよねっていう話もございましたので、がん検診の現状について、まず、御説明をいただきたいというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

それでは、がん検診について御説明をいたします。

まず、近隣自治体におけるがん検診の実施状況について御説明します。A3の近隣市町のがん検診実施状況をごらんください。

表の縦が、検診の種類とクーポン事業、横が近隣市町名になっております。一番左が鳥栖市になっております。

本市におきましては、がん検診は6種類、保健センターで行う集団検診と、あと乳がん、子宮がん検診につきましては、医療機関での個別検診も実施をいたしております。

鳥栖市の集団検診は、全部無料となっております、個別健診につきましては、自己負担が必要となっております。

また、クーポンのところを見ていただきますと、国の補助事業として、そこ、国って書いているところが、年齢が、子宮がんのクーポンにつきましては、20歳、それから、乳がんにつきましては、国が40歳の方に補助事業としてクーポンを送付しております。

それで、本市におきましては、国のこれらの対象者に加えて、5歳刻みの方にも独自に無料クーポンを送付しております、無料クーポンを使いますと、個別検診も無料で受診をすることができるということになっております。

ほかの市町を見てみますと、実施状況はほぼ同様でございまして、久留米市、佐賀市になりますと、個別検診が子宮、乳だけではなくて、全部のがんだったりとか、本市より多くの種類のがんを個別検診として実施しております。

自己負担額につきましては、それぞれの市町で決めておりますので、金額はばらばらになっております。

続きまして、がん検診の受診率でございます。A4のグラフになっているものをごらんください。

各がん検診の平成28年度から30年度までの受診率を出しております。

前立腺がん検診につきましては、健康増進法に定められているがん検診ではございませんので、ほかの市町の受診率が出てないために、ここには、グラフにはなっておりません。

それから、国におきましては、平成28年度と29年度、県におきましては、平成28年度しかまだ受診率が出てないということですので、そのような表示になっております。

ごらんいただきますと、胃がん、大腸がん、肺がん検診は、ほかの市町と比べて受診率が低く、乳がん、子宮がんにつきましては、他の市町より高い受診率となっております。

なかなか受診率が上がらないのが悩みでございますけれども、この受診率を出す母数の対象者数っていうのが全住民となっております、市の検診だけではなくて、職場で受けている方という方も母数のほうには含まれております。

本市のように就業者が多い市町におきましては、受診者数がふえても受診率の数字が伸びないという状況になっている1つの要因と考えられます。

それで、今後につきましては、全てのがん検診を同日に受けられるフルコースの日、これが大変好評でございますけれども、この日を年々ふやしております。

それから、健康診査とフルコースを合わせた日もふやしております。

あと、がん検診は全て予約制でございますけれども、予約時には、当日の受付時間を区切って予約をとっております、なるべく待ち時間を短くして、混雑せずに受診できるようにしたりと、毎年いろいろと工夫を行っているところでございます。

また、胃がん検診につきましては、胃内視鏡検査も取り入れられるように、現在、医師会と協議をしているところでございます。

令和2年度からは、検診の予約もウェブ予約ができるようになりますので、若い世代の方もぜひ利用をしていただきたいと思いますと思っております。

説明につきましては、以上でございます。

中川原豊志委員長

ありがとうございます。

今、説明がございましたので、確認したことや御意見等ございましたら、お受けいたしますが、いかがですか。

藤田昌隆委員

集団と個別に分けてあるんやけど、集団っちゅうのは、例えば、柚比地区なら柚比地区の呼びかけとか、例えば婦人会なら婦人会とか。そういう、集団の定義っちゃあ、どういう定義。例えば、何名以上とかは集団ですよとか。

まずそれを。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

場所を1カ所に決めて、そこに受診者の方が集まっていたら行くのが集団検診で、各医療機関で、それぞれの希望する医療機関で受けていただくのが個別検診というふうになっています。(発言する者あり)

極端に言えば、うちが設定した、この日にしますよっていうところを希望される方が、もしお一人しかいなかったら、集団検診の受診者が1人でしたってということにはなりません。

藤田昌隆委員

ほんじゃ次の質問。

今、企業の、もう一緒に入っているち言うとったろう、胃がんとか、普通、企業は、例えば、3月とかに健康診断しますと、会社としてせないかん。

その中で、定期健康診断を受けて、それから、がんのおそれがあるとかね、大腸がんのおそれがあると。それで、そこから振り分けられて、今度は個別についていうか、病院に行きますよね。

だから、この集団には、恐らく企業の人、あれは、数、入っていないと思うんよ。

それで、さっき入っているようなことを言われたんで、そこはどう。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

企業等で受けられた方の数が入っているのは、対象者数のほうでございます。(「何て」と呼ぶ者あり)

対象者数。

結局、全住民の数の中に入っているということでございます。

藤田昌隆委員

最後。このがん検診実施状況で、いろんな無料とか、ここ、一覧表であるやん。これを市報とかに、がんがん載せたほうがいいと思うんよ。

それはなぜかと言うと、唐津市に次いで2番目に、いろんな無料、やっています。

要するに、みんな、久留米市とか、小郡市とか、もう当然、向こうはただやろうと、先に進んでいると思っとるんやけど、とんでもないと。唐津市から次いで2番目。これを市民は知らんと思うんよ、恐らく知らん。

私も初めて、久留米市とか小郡市が、何やこれっち思ったぐらいやけん。

だから、さっき言った、検診率を上げるためにも、私は、この一覧表を市報で、毎年3月ぐらいに、健康診断とかする前に、私は載せるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

ありがとうございます。

鳥栖市が無料っていうことは、5月に全戸配布で、「受けないなんてもったいない」という、このチラシを、全部0円ですっていうチラシを配っておりますので、ある程度市民の方は御存じだと思うんですけど、ほかの市と比較して、ほかの市は無料じゃないのに鳥栖市は無料だよっていう、そこのPRは、ちょっとこのチラシでは、まだうまくできていないところもあります。

ただ、これを載せるかどうかっていうことは……、「いやいや、載せていいじゃん。何か問題ある」と呼ぶ者あり）そこら辺は、ちょっとまだ、ほかの市町との関係もございまして。

藤田昌隆委員

ほかの市町っち、これ、ちゃんとどこの市町も出しとるわけやろうもん、こういうやつは。いや、それをわざわざ、聞いてみないとわからんとか、そりゃあおかしかろうもんって。それで、みんなこれ、無料というのは、大体してある。ただ、しておるだけで、ほかの市町と比較して、ただ、どこも一緒たいって思いよったら、受けんわけたい、ありがたさがわからんで。

ほかの市町より鳥栖市はきちんとやっていますよと、それをアピールするために、ほかの市町との比較表を出したがいいっち、そういう意味ですよ。

だから、もうほかの市町に聞かんでも、あんたたち、こうしてしよるっちゃけん、それを出しましたよっちゅうだけで、事後報告でもいいくさい。頑張りなさいっち、あんたたちもって、そういう意味でもね。

以上です。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

ありがとうございます。

そこら辺のPRは、もっと強くしていかななくてはいけないと本当に思っております。

それで、この出し方につきましては、ちょっとこのままではなくて、また表現方法も考え

ながら、PRの方法も考えていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。（「ぜひ、がんばってください」と呼ぶ者あり）

成富牧男委員

事業所の分は把握できないという話だったんですか、さっきの。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

以前は、その就業者数というのを引いたところでの対象者を出すようになってたんですけども、国のほうがその対象者数の算定方法を変えまして、もうそういうことは全く関係なしに、全住民を対象者数にするようになっていうことになりましたので。

本当は、もう企業のほうで受けてあって、市の検診の対象者からは外してもいいような方が、その対象者数のほうに入ってきていますので、なかなか数字として受診率が上がっていないということはありません。

ただ、受診者数につきましては、平成29年度から30年度にかけては1,105名、人数はふえております

成富牧男委員

私、わかつとらんと思うけど、もう一回。

把握できるかできないかっていうのは、事業所にお勤めの方については、把握できる。

できるけど外すということ。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

事業所で受けているか、受けていないかについては、把握はできません。

成富牧男委員

そうすると、無料と、把握できないっていう、事業所にお勤めの方については、無料との関係でいうと、無料の恩恵は受けられると。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

がん検診の対象者は、全ての市民になっておりますので、お勤めされているとか、されていないとかに関係なく、例えば、企業においても、がん検診が胃がんだけしかないとか、肺がんだけしかやっていないってところもあると思いますので、そういう、自分のところの職場にはないがん検診については、市のほうの検診を受けていただくこととなります。

中川原豊志委員長

受けてもいいということ。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

受けてもいいってことです。

成富牧男委員

だから、その事業所さんが、ここにあるような無料の検診の分を全部事業者として賄える
っちゅう前提の場合は、その無料っていうのは、その人たちには無料という恩恵っちゅうよ
りも、それは、事業所さんがやること、事業所さんがそっちの立場でやるっちゅうことにな
ると。

中川原豊志委員長

休憩します。

午前10時50分休憩



午前10時52分開会

中川原豊志委員長

再開します。

成富牧男委員

要は、鳥栖市の住民が事業所以外で、ここに書いてあるような検診を受けたときには、無
料になりますよってというふうに理解しておけばいいとかな。

市民がここに書いてあるような検診を受けたときには、無料になりますよってということだ
けを理解しておけば、それ以外は、もう向こうで……、事業所のね。（「はい」と呼ぶ者あり）
わかりました。

牧瀬昭子委員

受診をしたくない人って、どんな気持ちでしないのかなってというのは、何か押さえてあり
ますか。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

何年か前に、国保と一緒にアンケートをとったことがありまして、自分は健康だからって
いうのが多かったのと、行く暇がない、それから、怖いのが主な理由だったと思います。

牧瀬昭子委員

押さえていただいているということで、よかったなと思いました。

私もこの中の1人だなと思って、例えば、先ほど無料ですって言われたときに、怖さとか、
健康だからとか、暇がないとかっていう人たちに、無料ですからってというのが、どのぐらい
響くかなってというのがちょっと気になったところで。

お話を国保のほうで聞いたときに、インセンティブとペナルティーの話を聞いて、やっぱり国民健康保険がどんどん値上がっていつてしまっていることに対しては、ええって思うんですよね。

自分は暇もないし、病院にもかかってないし、診断さえも受けていないっていう人たちからしたら、何にも得にもなっていないのに、どんどん値上がっていつているっていうのは、おかしいじゃないかと思うけど、検診には行かないっていうのは、保険料が上がっていつているかもしれないっていうのが伝わっているかなあっていうのが、そのあたりとかっていうのを聞いたときに、上がるならいかんやん、インセンティブつけないかんやん、ペナルティーならんほうがいいやんっていうのを知らなかったの。

もうちょっとその辺を伝えると、国保、上がりますよみたいな、このままだとあなたの国民健康保険、どんどん値上がってしまいますからっていうのを、その辺の情報をもう少し知らせると、怖さっていうよりも、伝わるものって何かないかなと思ったんですけど、いかがでしょうか。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

牧瀬委員のおっしゃるとおりだと思います。

それで今、いろいろ健康診査の受診勧奨にも訪問とかに行っておりますので、そのときはそこら辺の説明もして、予約をとったりですとかをしておりますし、忙しい方については、先ほど申し上げたように、フルコースっていう1日で全てのがんができるっていう、そういう日の日数も大分ふやしたりとか、そこら辺の工夫をしておりますので、検診の必要性っていうのは、もっともっと市民の方に丁寧に説明をしていかななくてはいけないと思っております。

藤田昌隆委員

今に関しては、同意しますとか、おかしくない。

いや今、牧瀬議員が言ったことに同意しますとか言われたけど、医療費が上がると、何でもわざわざ無料にしてしよるかって、わかっていないの。わかっているんやろうもん。

要するに、予防と、がんになって、早期治療、本当になんかになってしまっ、どんどん進行したやつは、多大な医療費がかかるわけですよ。だから、早期発見のためにこれをやっつるっちゃけんさ。

それに対して、行きたくないとか、暇がないとか、そういう人に関しては、それはしようがないやろうもん。本人が行きたくないっちはいいよるっちゃけん。

それを、同意しますとか、おかしかろうもんっち、違うっち。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

同意って申しますか、がん検診とかを受診勧奨する1つの理由っていうか、それは、議員が言われたことも1つあると。

ただ、がん検診をやっている一番の目的は、がん検診で早期発見、早期治療による、がんによる死亡を減らすっていうことが、まず、一番の大きな目標としてあるわけです。

そのためにやっております、そのためには、受診をしていただかないことには、がんも発見できないし、早期治療もできないということですので、受診をお勧めする1つの要因としては、そういうペナルティーのお話もしていかななくてはいけないと思います。

藤田昌隆委員

言葉の言い方やけど、がんを治す、重篤ながんと初期がんと、さっき、何遍も言いますけど、お金ですよ。1カ月も2カ月も3カ月も、ずっとがんで、医療費だけぼんぼん上がって。

だから、結局、がんを治す、同じ治すにしても、短い期間でしましよと。

今言った、がんを治すじゃない、がんを治す期間を短くしましよ、それによって、医療費を抑えましよと、そこよ。

今、がんを治すことが最終……、まあ最終的にはそうかもしれんけど、その手前やもん、本来の目的は。

そう思う。以上。

中川原豊志委員長

答弁は要りません。言いたい放題言っています。

ほか、御質問、よかですか。（「もう言うな」と呼ぶ者あり）

牧瀬昭子委員

そういう意味ではなかったの、もちろん、その早期っていうところはわかった上で、だけど、行くのが怖いっていうのはあるので、それに対して無料って幾ら言われたとしても、その怖さの半減にはなるのかなという疑問が湧いたわけですよ。

それは幾らであろうが……、ここでのやりとりは全然、ちょっと、ごめんなさい、質問なので、済みません。

それで、がん検診の受診の目標値っていうのは、鳥栖市の中ではありますか。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

鳥栖市っていうか、国で決めた目標がございまして、胃がんと大腸がんと肺がんについては40%、乳がんと子宮がんについては50%という目標がございまして、鳥栖市におきましても、この目標値に向かって、今、いろいろな取り組みを行っているところでございます。

牧瀬昭子委員

目標値を聞いてびっくりしたのですが、すいません、この中で前立腺がんの分っているのは、グラフにないのは、何ででしょうか。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

先ほど申し上げましたけれども、前立腺がん検診につきましては、健康増進法に定められているがん検診ではございませんので、各市町が受診率を出していないということで、この比較のグラフには、載せておりません。

ただ、本市におきましては、平成30年度の前立腺がん検診の受診率、69歳までの方についての受診率は6.6%になっております。

牧瀬昭子委員

すいません、ちょっと聞き損なっていた部分で、補足をありがとうございました。

それで、思ったのが、胃がんが6.何%とかで、大腸がんが5.何%で、肺がんが5%とか4.8%で、子宮がんと乳がんに関しては、20%を超えるような形なんですけど、この差は何だとお考えでしょうか。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

胃がんとか大腸がんとか肺がんについては、先ほどから出ております企業で行っている検診も結構多いのではないかなと思っております。

それと、あと子宮がんとか乳がん検診につきましては、結構マスコミで有名な方が乳がん子宮がんになったりですとか、乳がんのときの映画、あのときもまた、がばっと受診者数が上がったとか、そういう影響もかなり大きいのではないかなと思います。

牧瀬昭子委員

ありがとうございます。

その映画も見ましたので、それだったら納得がいくなどは思ったんですけど、鳥栖市自体でのがんの種類で一番亡くなるケースというのは、どんながんが一番多いんでしょうか。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

平成29年が直近ではございますけれども、鳥栖市におきましては、一番多いのが気管支及び肺の方が部位別では一番多く、その次が胃がんですね。

その次が大腸がんという順番になっております。

牧瀬昭子委員

ありがとうございます。

先ほどの乳がんの映画がとかっていうことは、要するに、なったらこうだよっていうのが目に見える形でわかる、それで、治ったという方の話も聞く、じゃあ早目にとかっていうことの情報が入ったからこそ、やっぱり行かなきゃなっていうふうにつながって、逆になった

ときの怖さっていうのにすりかえて、なる前に受診をって、なってもすぐに、とかっていうことを、情報としてぱっとう入ってくると思うので、肺とか胃とか腸というのが高いのであれば、なられたときの大変さとかっていうのとか、早めに見つかったからこうだったよとか。

これも議会報告会でこの話が出たときに、こういうのをやったださっているのがすごくいいねっていう話が出た中で、自分もこれをやったからこそ、次につながったとか、早く見つけられたので、早く治療ができたとかっていう声ももともとあったんですよ、よかったです。

それをもっと広めていってほしいという話があったので、どうやったら広まりますかねという話が出ていて、同じように受診率が伸び悩んでいるって話が出ていたので、そういったのを市民の声として広げるとかっていうことも、ぜひ同時に進めていかれてはどうかかなと思ったものでしたけど、どうでしょうか。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

そうですね、今、全戸配布しているチラシですとか、個人通知も出しておりますので、そういうチラシの中にそういう体験談を入れるとか、そういうふうな工夫を考えていきたいと思えます。

中川原豊志委員長

いいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

私のほうから。

国保加入者の受診率というのはわかるんですよ。

例えば、市が胃とか肺とか40%というふうな目標を持っていても、市民全体からすると6%とか、その辺しかない。企業に勤める方のデータが入ってこんもんだから。

国保加入者であれば、どのぐらいの受診率になっているかというのがわかれば。

坂井浩子健康増進課長兼保健センター所長

平成30年度の国保の方の受診率ですけれども、大腸がんが11.3%、肺がんが10.7%、子宮がんが28.4%、乳がんは20.6%、胃がんにつきましては、50歳から69歳の受診率しか出しておりませんが、全受診者では7.1%が、国保の方については12.0%。

それと、国保の方のほうの方が全体よりもちょっと受診率が高いという状況にはなっております。

中川原豊志委員長

ありがとうございます。

それにしても、低いかなっていうところがございまして、今、皆さんからいろいろ御意見をいただきましたけれども、せっかく鳥栖市は無料にしているんで、もったいないなというチラシをつくっていただいております。

まずは、行かれたことがない方、行ってみてください。

俺も考えます。まだ1回しか行ったらんっちゃん。

まず、受診をしていただきたいというふうに思います。

それと、議会報告会の中に、バリウムよりも、もう胃カメラの時代じゃなかねっちゃん話があったんですよ。

でも、そういう内視鏡のほうも今、考えているということですので、ぜひ、内視鏡で検査できるようにしていただきたいと、進めていただきたいというふうに思っております。（「内視鏡は高すぎろうもん」と呼ぶ者あり）

そいけん、今、進めているって言ったやん。

それでも無料にするなら、まだいいと思いますんで、よろしくお願いします。

じゃあ、よろしいですか、がん検診等については。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

oo

体育施設（体育館・グラウンド等も含む）の整備計画について

中川原豊志委員長

続けていきます。

次に、スポーツ施設の整備についてということで、体育館や陸上競技場、野球場等の不足があるんで、せっかく鳥栖市はスポーツ宣言都市もしているにもかかわらず、施設が少ないなという話が議会報告会の中でもありましたので、まず、そういった関連の改修計画、整備計画と、今後、グラウンドの増設とかの考えがあるかどうかについて、御説明をお願いします。

佐藤道夫健康福祉みらい部次長兼スポーツ振興課長

体育館の、まず空調の今後の改修計画ということにつきましては、6月の西依議員の一般質問にもお答えしておりますけれども、当然、最近の猛暑の中で、体育施設に空調が入っていないということで、体調を崩される方とかいらっしやいますし、空調設備が必要であるというのには認識しております。

そういったことも含めまして、令和5年に国民スポーツ大会が佐賀県で行われまして、鳥

栖市では、体育館ではバレーボール、空手道を受け入れることとしております。

その関係もありまして、施設改修等につきましては、国の社会資本整備交付金の対象事業ということもあります。

そういった国の補助等を活用しながら、体育館の改修を図っていききたいということで、今、計画をしております。

その計画の内容につきましては、まず、体育館につきましては、来年度に外壁や屋根の改修、それから照明等の改修、トイレ、更衣室等、空調も含めてですけれども、そういった改修に伴う設計の予算化をお願いしたいというふうに考えております。

実際の工事につきましては、令和3年度以降に実施をしていきたいということを考えております。

今、空調の今後の改修ということで、設計の中でお話をしましたけれども、現段階では、内部で空調の改修について議論をしているところでございます。方向性としては、改修の中で空調設備を設置するというので、今、議論を進めているというところでございます。

ですから、はっきりここで、できますということは明言できませんけれども、方向性としては、空調を設置する方向で今議論を進めているということで、来年設計を上げて、工事を進めていくということでございます。

空調設備につきましては、市民体育館は昭和51年の建物でございます。当時、空調設備をつけるということでダクトが設置をされております。

調査の結果、そのダクトを使えるのではないかと、使えるという報告も受けておりますので、そのダクトを活用した空調と、それから、輻射式というのがありまして、水を冷やしたりとか温めたりしたのを循環させて、その熱で冷やす、暖めるという輻射式パネルという方法もあります。

ですから、そういったものを複合してつけるケースとか、それだけとか、ダクトを使った空調とか、いろんな手法があるかと思っておりますので、それも含めて議論を進めているところでございます。

要は、イニシャルコストとランニングコストを比較しながら、今後、有効的に活用できるような空調を設置してしていきたいということで、今、進めております。

続きまして、陸上競技場の今後の改修計画ということでございます。

これについても、6月議会、伊藤議員の御質問にお答えしておりますけれども、現在、日本陸上協会の第4種公認という形で認定を受けております。

これが昨年の3月に更新をしております。この公認期間が5年ですけれども、4年後には更新をしなければならないという状況でございます。

前回の公認検定を受ける際に指摘を受けておりますのが、まず、フィールドの芝生。その部分が、平成8年、県だと思えますけれども、つくっておりますけれども、それから目土等をやって、芝生の高さがどんどん上がってきていると。今、30センチほどは高くなっておりますので、それを削らないと公認はとれませんよということでございます。

要は、陸上のフィールド競技ができないという御指摘を受けております。

それから、円盤投げ、ハンマー投げの囲い、鉄製の囲いがありますけれども、そういったものを更新をしなきゃならないとか、いろんな宿題をいただいております。

もう一つは、その後判明と言いましょか、ルールが変わりまして、陸上競技場のレーン幅、今、1.25メートルのレーンでつくっているんですけども、国際ルールの変更で1.22メートルになっております。

3センチ、レーンが狭くなったということもありまして、4年後の更新時期には、そのレーンを改修しなきゃならないという命題もあります。

そういった中で、我々としては、今、鳥栖の陸上競技協会と打ち合わせをしておりますけれども、特に鳥栖市の場合は、アンツーカー、いわゆるれんがの土ということで、雨天時が非常に使いづらいということもあって、大会は大体佐賀の陸上競技場とかであるんですけど、本番と練習する場所のトラックが違うということで、非常に御不便をかけているということはどうかしておりますし、そういった不便をなくすためにも、全天候トラックにしてほしいという要望を受けておりますので、4年後の改修に向けましては、全天候トラックにしたいということで、今、話を進めております。内部でも議論を進めているところでございます。

そういった形で、トラックについては、全天候舗装への改修、それから、フィールドについては、芝のピッチの切り下げ、そういった形で今、計画をしているところでございます。

次に、野球場の不足に関しての今後の考え方ということでございます。

これについては、いろんな議論、御要望等があるかと思えます。

野球場に関しましては、市民球場と基里運動広場が一般の社会人ができる野球場として、2カ所しかないということでございます。

ほかに、競馬場南側に鳥栖のリトルのほうが専用球場を持ってらっしゃいますので、それも活用というのがありますけれども、儀徳町の運動広場や市役所のグラウンドが一般野球が使いなくなったということで、非常に活動の場が狭まったというふうに認識をしております。

そういった形で、当然、当課といたしましては、そういう球技場、野球場が不足しているのは、十分認識をしております。

しかしながら、その場所——場所ちゅうのは、土地の確保がまず必要だなというところもございまして、ソフトボールとか、野球とかいろんな専用球場がいいのか、多目的運動広

場がいいのかという議論もありますので、そういったところは、関係機関と協議をしながら、どういった競技場、野球場が必要なのかも含めて議論して、将来的には、設置をしていききたいなど――当課としては、思っております。

当然、それには財源確保も必要でございますので、そういったところを含めて協議をして、将来的には確保をしていきたいなど考えているところでございます。

以上でございます。

中川原豊志委員長

今、説明が終わりましたんで、御意見や御要望等ございましたらお受けしますが、いかがですか。

藤田昌隆委員

ごめん、体育館とか、グラウンドとか、野球グラウンドとか、陸上競技場、これ、もうずっと前から出ているわけよね。

それで、佐賀国体があるという中で、早く、国体の金を使ってでも、いろんな補助金のメニューを引っ張り出して、してくださいと。これ、ずっと言ってきたのよ。

それで、今、グラウンドだって、陸上競技場だって、芝の問題も出ている。芝の問題も、サッカー場のあそこから提案しとるわけよ。

おかしかなと、一人で、素人ばかりで、できるわけなからうもんで。

そん中でまた、今からまたどうのこうのとか言いよるけど、今まで大体、何ばしてきたと。

いろんな提案というか、一般質問の中でもずっとしてきた、その中で、国体を利用してどうのこうのちゅうが、やっと体育館が今、空調の問題が出てきて、じゃあそれをしようかなと。

それから、野球場のセンターを。

それぐらいじゃないですか。

だから、大きな問題ちゅうのは、ほかの問題もきちんと答えも出ていないし、もう6年も7年も前からスポーツ施設に関しては、ずっと言ってきたるんやけど、何も進んでいないような気がする。

それで、野球場の不足だってさ、もうこれも早うからわかっていたし。

今から、土地の問題、それから、お金の問題っち言われる、もちろんそうやけど、その辺も含めて、国体、いろんな利用できるものをしてくださいと、したほうがいいよ、だからメニューを探してくださいよっち言っているんやけど、何もできていないって。

その辺は、本当に国体を利用してする気があるのか、ちょっと教えてくれんね。

佐藤道夫健康福祉みらい部次長兼スポーツ振興課長

市民体育館につきましては、先ほど申し上げましたとおり、国体の受け入れ会場として整備を進めるようにしております。

野球場につきましても、高校野球の軟式の会場となっておりますので、野球場についても、国体の補助を活用して行うとしております。

あと、サッカーに関しては、鳥栖スタジアムと北部グラウンドでやりますけれども、これに関しては、施設改修については基本的には考えておりませんが、あと、ちょっと、まだ公式には決まっておりますけれども、ゲートボール、これは公開競技になります。

国民スポーツ大会でゲートボールというのがありまして、これは正式競技ではなくて、公開競技、もう一つ下のランクの——下というのは失礼ですけれども、公開競技として、一応、県のほうから鳥栖市で開催をしてくれという要請を受けております。

場所につきましては、実は陸上競技場を予定しておりまして、これを受けることによって、陸上競技場が国体の補助を使って改修ができるということで、今、受け入れる準備を進めているという状況でございます。

それによって、今、申し上げました体育館、球場、陸上競技場が国体の補助、県の補助を活用しながら施設改修ができるということで、準備を進めているという状況でございます。

新たな球場につきましては、それこそやっぱり補助の関係とか、当然、調査研究をしなくなりませんので、場所の確保を含めて、事業手法を検討して進めていかなきゃならないのかなと思っております。

以上でございます。

藤田昌隆委員

前、奈良国体があるけんって、奈良のほうに電話したことがあるんよ、聞いたんよ。

そうしたら、補助メニューっちゅうのは、新設でするのは、非常に難しいと。しかし、いろんな改修は、いろんな補助メニューがありますよっち、そういう話を聞いて、俺、一般質問の中でしたわけよ。

それで、今、言われたけど、さっき言った、奈良が言ったような、いろんな補助メニューがあるから、下手に新しくつくるよりは、改修したほうがいいですよっちいう助言まで受けたわけよ。

そいばってん、どうも今の……、確かにほんの一部だけ、ちょっとかいつまんでもらっただけで、本当の金の使い方やない、要するに、補助金の取り方ではないかなあと、違うような気がする。いかがでしょうか。

佐藤道夫健康福祉みらい部次長兼スポーツ振興課長

奈良県がどういう意味でおっしゃったか、ちょっとわからないんですけども、確かに、

補助があります。

しかしながら、その正規団体、日本の中央競技団体の視察を受け入れて、そのときに指摘を受けた事項については、補助の対象になるんですけれども、要望とか、こういうふうにして下さいとか言われた分については、補助の対象とはならないということになっております。

そういった関係で、非常に我々としては、その指摘と要望の事項の境があるものですから、そこが指摘事項として上がっていないと。

今回の体育館についても、冷房設置については、指摘事項ではない、要望事項になっており、要はその会場としてコートはできますよということですから、競技団体として、それを指摘事項としては言えない立場にあるというふうに聞いております。

以上でございます。

藤田昌隆委員

ちょっと待って。その指摘事項ちゅうのは、相手が気づかんやったら出てこんわけよね。

気づかせるための、そのための話し合いを現場でするっちゃけんさ、それは相手が気づかんやったら何もできませんっち言いよるとと一緒やないか。

違うやろもん。こういう問題がありますとか、そういう会議をしようもん。

その中で相手が指摘してこんと何もできませんっち、おかしかろうもん。

中川原豊志委員長

休憩します。

午前11時24分休憩



午前11時29分開会

中川原豊志委員長

再開します。

議会報告会で上がってきました件について、ちょっと横にそれたところがありますんで、戻して、御質問等ありましたら、お願いします。

樋口伸一郎委員

直接関係ないんですけど、考え方というか、予定というか、わかる範囲で教えていただけ

ればと思うんですけど。

3号線の拡張工事が予定されてまして、今、市民球場と基里運動広場のところで、野球場なんですけど、活用されていますよね。

これ、拡張していくと、グラウンド側のほうに拡張するんで、今のままだでも、例えば、ネットを国道3号側に越していつているっていうような事例はあっているんで、これが、また儀徳町グラウンドがなくなってしまったように同様な予測をしていたほうが無難になるかなと思うんですよ。

4車線になって、なおかつ車の台数もどんどん進んでいく中で、越す距離は短くなるので、弾道がどんどん越していけば、これもまた活用できなくなる可能性が高くあるかと思うんで、よかったら、やっぱり野球場に関して市民球場だけになっちゃえば、中学校とかの活用も考えていかないといけないけど、やっぱり生徒とか、部活とか、そうしたところの差し支えはあってはならないと思うので、そうした意味でも、もうどんどん迫ってきているのかなあと思うんですよね。

いよいよなくなってくる、この市役所グラウンドもそうですし、今川グラウンドもなくなったので。市民球場だけだと、さすがにもう、さまざまな対応が困難になるかという時期が迫ってきたかと思うんですけど、そのあたりの考え方というか。

佐藤道夫健康福祉みらい部次長兼スポーツ振興課長

基里運動広場に関しましては、おっしゃるとおり、国道3号の拡幅で支障するというところで、今、支障物件、支障範囲については、提示を受けております。

それで、基本的な考え方としては、補償を受けて、市のほうでその補償プラスアルファで再度ネットをつくりなおすということで、今、提示を受けております。

今、御心配されておりますネットの高さを高くして、越えないような形で補償をいただきたいということで今、交渉を進めております。

ですから、基本的には基里運動広場も野球ができるような、存続できるような形で考えていきたいということで今、整理をしております。

ただ、将来的には、おっしゃるとおり、野球場が不足しているのは、現実として問題でありますので、本当に早目に、具体的な場所とか財源を確保しながら、検討を図りながら、設置をしていきたいなというふうに思っております。

樋口伸一郎委員

検討は、具体的にどうしたらいいというのは、確かにわかんないと思うんですけど、やっぱり、物理的に考えても、今でも相当高いネットがつくられていて、さらに2車線分というか、1車線以上狭くなれば、それなりのネットが必要になって、結構、市民球場の何枚かの

ネットをかけるときも多額のお金がかかっているのです、それを全面にっとなったら、多分、相当田んぼとか山、切り開いてできるぐらいかかってもおかしくないかなっていうふうにも考えられるので。

それはもう、あくまでも今の段階では何も言えんです。

ただ、どうしても使用制限がかかる可能性が大きくなるし、仮に十分な運動ができる広場にしようと思えば、それなりの金をかけてネットを高くしないといけないっていうのは、もう明白かなっていうところなんで、今言われたように、さまざまな検討をされて、また、その検討の内容が出てきていますっていう情報が新たにわかれば、委員会のほうに申し出ていただければありがたいなと思っております。

成富牧男委員

この野球場、要は、絶対数が不足しとるっちゅう話でしょう。（「はい」と呼ぶ者あり）

それで、ちょっと単純な質問ですけど、学校グラウンドは使えないとか、使ったらいかんとか、もしくは使えない、使おうにも尺に合わんたいってということなのか、使えない理由があるのか、そこら辺のところを教えてください。

佐藤道夫健康福祉みらい部次長兼スポーツ振興課長

学校施設に関しては、学校長の判断で貸し借り、使用許可はされていますので、市の施設で言えば、ナイター照明がついている麓小学校、田代小学校につきましては、5時から9時まで社会体育施設として、許可権限を持っております。

それ以外については、学校施設としての校長の許認可、教育委員会の許認可になっております。

成富牧男委員

そんなら、学校がよかって言えば、使えるっちゅう話。

佐藤道夫健康福祉みらい部次長兼スポーツ振興課長

そのとおりでございます。

成富牧男委員

そうしたら、スポーツ振興課としては、そこら辺は、今のような、もう5時から以降はうちですじゃなくて、働きかけるようなことはしていいじゃないと。もし、使えるとやったら。

佐藤道夫健康福祉みらい部次長兼スポーツ振興課長

我々の立場からすると、学校施設も有効に活用できるだけできればいいなというふうに思っておりますので、以前は体育施設開放事業とかいう試みもありましたので——多分、今、なくなっていると思いますけれども——そういったものも活用して、今は社会体育と学校体

午前11時43分休憩

oo

午前11時49分開会

中川原豊志委員長

再開します。

oo

中川原豊志委員長

ただいま3つの市民からの意見等について、執行部のほうから説明を受けまして、いろいろ、こっちからも御意見や要望等を言ったところでございますけれども、議長のほうから調査をしてくれっていうふうなことでしたんで、議長のほうにまたお返しをしたいと思います。

その内容についてですけども、例えば、皆さんのほうから、これだけは残しといてね、入れといてねっていうところがあれば、お受けをしようかなと。

あとは正副委員長にお任せいただけんかなというふうに思っておりますが、いかがですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

では、例えば子育て支援、子育てマップ、並びに病児保育について、これとこれはやっぱり残しておいてねっていうところがあれば、手短かにお願いしたいと思います。

藤田昌隆委員

さっき言ったように、市も入って、きちんとかういうマップの見直しを、もう一回してほしい。

要するに、直接このマップ全体に金が行っているわけじゃないんやけど、これからいったら、きちんと市からの金も入っているんで。

もう一回見直し、内容っていうか、お店の選定から、そういった基準までをせんとおかしいんじゃないでしょうか。

中川原豊志委員長

休憩します。

午前11時51分休憩



午前11時51分開会

中川原豊志委員長

再開します。

藤田昌隆委員

この内容、目的としては、非常にいいと。ほかの市民の方からも評価されていると。

それで、これを鳥栖市全体に、ぜひ広めたいというスタンスのもとに、じゃあもう一回、市民協働とか、担当課と、それから地元と話し合いをして、それで、さらにいいものをつくるために話し合いの場を持っていただいて、一緒にいいものつくってほしいということを要望しておきます。

中川原豊志委員長

ほか。

例えば、幼児保育についても、病児保育も一応、推進したいというふうな方向ばってん、なかなかしてくれるところがないと。

さらに協力をしてくれと、推進してくれというふうなことで、書くと思いますんで、そういう感じでよかですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

がん検診については……

森山林委員

ちょっと、先ほどの意見には出とらんばってん、病後児保育も、駅前のレインボーか、田代駅の、あそこはしとったですけれども。

休日保育、これがたしか1園ありよったと思うじゃん、みどりヶ丘保育園かなんかが。

ところが、これが全部なくなってしもうたとですよ。（「なくなりました」と呼ぶ者あり）

さっき言おうかと思ひよったとばってんがね、何でやろうかっていうと、結局、もう保育園の先生がおらんということも含めて。延長保育はしよるばってんね。

ところが、休日保育っちゅうとが、どこでもやめてしまったわけですよ。

はっきり言うと門司先生のところでもやっておられた。しかし、それも合わないからというところでやめられた。

中川原豊志委員長

ちょっと、もう一回休憩します。

午前11時52分休憩

oo

午後0時開会

中川原豊志委員長

再開します。

では、今、森山議員からありました休日保育等については、今後の課題ということで協議をさせていただきますということで、お願いします。

がん検診等については、一応、受診率の向上を、せっかくいい制度ですから、受診率の向上につなげていただきたいと。他の市町よりも先進してやっている事業ですねということで。

体育施設の整備計画については、体育館、陸上競技場、野球場等については、それぞれ話を聞きましたので、そういったところを踏まえて確認をさせていただいて、議長にお返しをしたいと。

内容等については、もう正副委員長に御一任いただくということで、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

では、正副委員長に一任いただくということで、決しましたので、本日の日程を終了いたします。

oo

中川原豊志委員長

これをもちまして、厚生常任委員会を閉会いたします。

午後0時1分散会

鳥栖市議会委員会条例第29条の規定によりここに押印する。

鳥栖市議会厚生常任委員長 中 川 原 豊 志 ⑩

